

# かていやく

昭和45年5月31日

題字・藤井得三郎氏

## 危急存亡の秋

理事長 津村重合

組合の一年間の行事は各委員長からご報告があることであろうから、業界の出来事を展望したいと思う。

ふり返ってみるまでもなく、この一年間も波乱の多い年であったように思うが、業界も自由化等の波の影響を受けないとは言えないので、益々団結を固くして業界の利益を守っていかなければならない。近頃ほど本来ならば当然守ってもらえる自分の正当な権利さえも自らの手で守らなければならぬのだと痛感されることが多く起るのもどんなものである。このことは厳しい毎日である証拠と言えるのかもしれない。こんな時であるから優秀なメンバーの集まっていられるこの組合を利用されることを、組合員の皆様にあらためて切望する次第である。困ったと思われたなら何でも結構です、どしど

しご相談にお出かけ下さることを重ねてお願い申し上げます。

さて、業界の重大事件となると大衆薬の取扱いについてであるが、この方針が当局より示されて、それが印刷されて当組合に配布されて再三の検討会を開くことができるようになって、業界も話し合いの場が充分持てるようになって大変有難いと思つた。その為に業界あげてこのように一丸となり、熱心に討論されたことは今までになかったことである。今後は充分業界の意見が発表され、原案に盛込まれる時が来たと喜び、随分努力をしたのであった。

次に風邪薬の問題であるが、先年世間を騒がせたアンプル問題で大いに議論された基準を基にして、改めて基準を作り地方移譲することとして、検討に入った大体の結論を得て、一部では大いに喜ばれたのだが、再度検討してみると、今後は新しい風邪薬は今までのようには行かぬ、もしかすると全然新しいというか改良して風邪薬ができないのではないかとこの心配があることが解つた。それはこの基準にあるものと同じ場合には、中央薬事審議会にもかけず資料で許可するが、その他の新しいものは薬審にはかって決めるとい

ことであるが、このことは以上に記したように新しい、又は改良したものには許されないのではないか、又は中小企業ではほとんど不可能な臨床データ要求されるのではないか、正当な理由があれば、というその理由は何処が決定するのか、いろいろ面倒になってどうも将来我々の薬はなくなるのではないかという不安となってくるのである。

又、アンプルに期限をつけるという問題が起つた。それは今国会で問題となる可能性があるからとの理由から検討することにしたが、不安定であるビタミンB<sub>1</sub>とビタミンCとを対象として検討した結果をまとめたら、突如効能によって決めるといふ案に変更され、その理由が明らかでなく、且つ四月を期して実行するといふ、業界の意とは全く異なつた条件を厚生省から提示されて驚き入つたのである。何故にこんな決定をするのか、理由が不明である。今後その薬についての説明があるだろうがよくお聞きしたいものである。

× × ×

# 薬と共に

## 四十有余年

松田 金之助

千葉県は戦後の急速な発展につれて現在では東京都の副都心の如き感があり殊に常盤線沿線の松戸、柏は場所によっては都心には都内より近距離という現象さえおこっておりま

す。今ここにのべます松戸市には最近名物が一つ出来ました。現在松戸市長松本清氏で元をいえば一介の薬店の御主人でありました。

最近限りなく拡がる住宅地開発の先駆者として既に十数年前より開発に着目された松本キヨシ薬店発生地である北小金を中心に丘を崩し畠や田を埋めて住宅地及び商店街予定地を供給し常盤線沿線で名もない田舎町を開発その功績によりキヨシ町或はキヨシ公園等が設立され松本清氏の胸像が立てられており、そして現松戸市長に推され日本では唯一人在任四年間の俸給を全部市の社会福祉

施設に寄附されるといふなかなかい

うは易く行は難しという事を実行されている方である。松本清氏は私の目からまた肌から感じとった半生記を簡単に述べ、一薬店の変遷を述べさせていただきながら、氏の迂余曲折の人生を御報せしたいと思いま



松戸市長 松本清氏

す。生れは松戸市よりはるか奥地の布佐と申す茨城県に近い所で早くより東京の牛込の薬店に修業最初の店を持たれたのが北小金駅近くの神社の

前で本当に今はどこをさがしてもない様な田舎の薬屋でした。

そこで千葉県薬種商並に製業者の資格を取られて私が玉置文治郎商店の一セールスマンとして毎月一度は必ず出張致します折、目薬や胃腸薬の製造に努力されておりました。

若い頃は長身で男らしい快男子、不愛想というより傲慢不遜ともいふ態度で始めて伺うセールスマンは仲々とつきにくい性格でした。

御世辞もなければ気取るでもない店の構造は主人の性格そのままズバリ全く殺風景な店構へでした。始めは商売を通じ語り合ったものの年を重ねるにつれて四十有余年の交際となり、ごう情でいい立ったら後に引かぬ同じ様な性格が何時の間にやら歯車がうまく噛み合うののでしょうか、何となく離れたい間となつてしまいました。何事も勝気なこの堂々とした男らしい氏は土地の豪商丸山鉄五郎氏の令嬢静子さんを夫人として、こし入れされたのも男らしい男と、見込んだ丸山氏も静子さんも先見の目があったといえましよう。

薬店とはいいなながらも、無雑作で何の苦勞もなく育つた静子さんはさぞ大変であった事と当時を想像いたします。

これ等松本氏の行動が刺激となり自分自身の将来の事を考え抜いた末、昭和八年八月玉置文治郎商店を円満退社、独立の第一歩をふみ出す事となり港区愛宕町に名称はマル金商店として家庭薬を中心とした卸業の真似事に等しいミニ問屋を開業し、そろそろ大東亜戦争の初期ともいふ小さな戦争が北満のあなたにおこっておりました。その為必然的に商品の不足が目立って参りました。

当時絶好の相談相手の氏と共に中京方面或は北へ南へと、薬の仕入れに行動を共にしました一方東京で薬種の組合を創立し近県の千葉県に呼びかけたところ、氏の努力で専務の杉山氏六実の故人須高氏等と共に素早く創立、氏は千葉県薬種商組合の会長に就任し全国組織の計画に非常に協力せられ昭和十五年全日本薬種商聯盟の誕生を見ました。

この縁故を以って戦争中聯盟の初代の会頭故上田孝志(代議士)先生の東京の住居が焼けた時奥さんの実家丸山邸内に引取って寝食の面倒をみられた事もある、人の想像もつかぬ細やかな人情の人でもありました。

戦後近郊の発展するにつれ松本氏は商売の目標を多方面に切換えられ薬店の方は夫人と戦争前よりの店員小川庄三郎君にまかせ、一方農薬の方の卸部門を桐谷正雄氏にと今後は営業を静子夫人を中心として、かねて念願であった公職即ち千葉県会議員に立候補され見事当選されました。これ等は永年努力した組合の理事長会長等の実績が実を結びこれ等各団体の力も大であったと思えます。戦後のまだ荒れはてた所から選挙のたび毎に東京からかけつけメガホンを手を連呼した時、今の松戸市

長が誕生しようとは想像も出来ない事でした。政治と家業は一致しない、これが企業家の政界進出への昔からジレンクスであったにもかかわらず、県議会を六期当選正に政治と経済を両立し得た所が正に非凡な人物であると思います。

薬店の方は次々と支店を拡大柏市に五階建のビルを作りそこを本拠に次々と予定地を確保され 恰も将棋の駒の如く所要所を占められ既に三十五軒のチェーン店を持たれる外に東京に二店、茨城に二軒、今期二十億の売上をめざして松本一那専務(長男)並に二人の兄弟と国行総務部長、堀内次長等数々の優秀社員が打って一丸となって活躍のすがたは正に千葉県は申す迄もなく日本でも有数なチェーンとして立派な実績を上げておられる折も折、昨年川島副総裁の依頼により松戸市長の立候補をたのまれ現職の県会議員の椅子を離れて保守、革新の激戦に見事に当選、型破りの市長としてデビューされ昔から役人の仕事はスローモーが通り相場これ打破すべく、すぐやる課を設立し緊急の場合は日曜といわず祭日でも馳けつける。又電話一本で印鑑の必要もなく、処置するというハイスピード時代にふさわしい

その行動力これが各新聞、テレビに取り上げられ型破りの市長の登場は、日本のすみずみ迄一大センセイションを巻き起し、今日迄に松戸市を見学される市が既に百二十市といわれています。

松戸市長は松戸市も東京並に林間学校の建設という事となり市民の声にこたえて昨年より一年間の辞退した給与ボーナス合せて三百三十万円を三月の定例市議会で用地買取費に転用する承認をとり、長野県軽井沢町長を通じ山林九一九平方メートルを買収、百八十人収容の鉄骨平屋建三棟を建てて八月より開放される段取。松戸市はまだまだ空地が多く今後どの様に活用されるかは松本市長の手腕に期待して止みません。

つづく  
(東海貿易(株)社長)

## 一般医薬品をめぐる環境について

日薬連 製造承認委員

津村重孝

今月の論説

大きな問題として次のようなもの

があります。

- ①カゼ薬の基準
  - ②有効期限
  - ③いわゆる大衆薬の取扱いについて
  - ④許認可事務の一部地方移譲。
- まず現況をお知らせします。



すべきだと主張していますが、現在は全面停止です。

④①が遅れたので、おくらせています。業界の一部では住所変更等、簡単なものの地方移譲を進めるよう希望していますが、これは全面ストップです。

以上の通りです、一時は四月から全てが全速力で進行してしまいましたが、見えましたが、大きなブレーキがかかったのでもっと安心したところどころです。業界が科学的な主張をするのだという事が判ってもらえたこともあり、自民党政調会社会部会が働きかけて、政治的な解決がものを言ったというのが最も大きな原因だったと思います。この問題については、社会部会の中に小委員会の如きものができまして、その中には上原正吉参院議員も入っております。上原さんのおっしゃるには業界の重要問題であるこの種の問題についての局長通達等は厚生省のみの判断で発令せずにこの小委員会(仮称)に相談して実施するようにするという取決めが自民党と厚生省の間でできたのだそうです。この会では業界の希望を出来るだけ多く聞きたいから、何でも意見のある人は、所属組合を通じて日薬連から厚





りません。思いついたのは大長老、白井正助氏のことです。ご承知の博学通人、お伺いを立てましたら、早速次のような、お答を賜りました。ひとり占めするには、あまりに勿体ない文献なので、本誌にご紹介させて頂きます。白井正助氏に厚く御礼申し上げます。(玉)

今は両国の一部になっているが、もとは、隅田川から米沢町の裏へ廻って入る堀があって、舟で矢之倉へ荷揚げをしていた。元禄十一年倉庫を移した後、西方の一部を埋立てたのを初めとして、漸次に埋立て、薬研堀埋立地と称した。残った堀の一部も維新後埋立てられた。

薬研堀町には、金刀比羅宮があって、氏子地はないのに仲々賑った。(「新撰東京名所図会」所載) また、その傍に不動堂があった。

薬研堀町には幕士の邸宅があったほか、医師が多く居住していて、俗にここを「医者町」と呼んでいた。

日本橋区史によると、「薬研堀趾、薬研堀町より発し、米沢町三丁目、矢之倉町を過ぎ、大川に通ずる溝渠なりしなり。御府内備考には、薬研堀は両国橋の南、元矢之倉の入堀なり。昔は、横山町まで入堀殊に深く、御米蔵の船入もこの堀につづきと。今の如く狭められしは、御蔵を築地へ移されし後なるべし。武江年表、明和八年(一七七二)の条に『今年六月より十一月まで埋立て、そ

の跡町屋となる』とあり。残部は明治三十六年(一九〇三)これを埋築したり。その状恰も薬研に似たるが故に名ありと。或は、当時この附近に医家多く居住せるによるとも云ふ」と記されている。薬研堀町五二番地には大正天皇の待医、片山芳林も住んでいたもので、或はこの説も当たっているかも知れない。

尚、矢之蔵は旧称「谷野」という地名で、武器の矢とは関係がない。蔵は土地の性格を示した文字である。



## 委員会から

### 薬事委員会

本来静かなるべき本委員会も、大衆薬の規制、かぜ薬の承認基準(案)、地方委譲等次から次と業界にとつて重大問題が起り、本委員会の活動を余儀なくされて来た。幸ひ各委員は薬学、法規のベテラン揃いで、難問題も敏速に処理出来るので、委員長としては大助かりである。委員の方々はいづれも会社の要職にある方

で、貴重な時間をさいて組合のために働いて下さるのは感謝に耐えない。

大衆薬の規制は世界の趨勢であり、医師、消費者の薬及び製薬業界の混乱に対する批判も目を追ってはげしくなつて来ており、医薬品の特性から考えて、メーカーも反省しなければならぬ時に来ている事は事実である。いたずらに既得権にすぎりついたり、日進月歩の医学、薬学の中にあつて、旧態依然たる企業の姿勢を持ち続けようとするのは時代錯誤も甚だしいといわれても仕方がない。我々家庭薬メーカーも自社製品の科学的な再点検と現代に即した企業態勢をとつてゆかなくてはならなくなつて来た。学問の場で話すことはやはり学問的なデータをもつて話し合はなくてはならないし、それに必要な研究態勢を作らなくては時流に取り残されるのは必定であろう。新薬、直販、配置、家庭薬と業態の異なる業界の中にあつて、次々に打出される大衆薬の規制をどう乗りこえてゆくか非常にむずかしい問題である。

#### 委員会記録

二月十日 かぜ薬の承認基準(案)に対する検討

原則的には賛成であるが、削除又は減量された薬物について、その理由の提示を求め、厚生省の今後の方針を質すこととし、理事会に答申した。(詳細は都薬工発第一六六号、別紙一参照)

三月十日 かぜ薬に配合する生薬の取扱いについて(案)の検討

本案は生薬及び漢方処方への撰択に多数の疑義があり、説明なくしては検討出来ない点もあり、又生薬については化学的に不明な事が余りにも多く、簡単に基準をきめること自体問題がある。充分解明されない間は現行通り、自由にすべきである旨答申した。

生薬及び漢方処方の配合されたかぜ薬は当組合としては、主力製品としているメーカーはないのでさ程問題にはならないが、将来の事もあつし、生薬、漢方製剤については当組合にとつては伝統もあり、又造詣の深い方も多数おられるので、日薬連に積極的に協力することにした。

#### 今年度の予定

- ①委員の増員―組合の中に薬学、法規にくわしい方が多数おられるので、増員し連絡を密にする
- ②製品の実態調査―次々におこる規制に対処し、業権を擁護する

上から、各社製品の実態がわかっていないと思わぬ齟齬を来す恐れがあるので、製品リストを作る。

### 販売対策委員会

本年は流通機構に大きな変化が生ずると思われます。大型薬店のチェーン化、大スーパー間の合併又は協業といった傾向に対処して、雑貨系卸業では、全日本を九か十のブロックに分けて、それぞれのブロック内では一社にまとまって、上述のような大組織の要望に対処していかうとしています。医薬部外品を扱っている関係から、御参考までに、ちょっとその話にふれてみましょう。

四月一日に九州明和という会社が発足しました。これは九州の各県でそれぞれ大きな勢力をもっている七社が合併と同じような効果をねらい、場合によっては、そこまでいってもよいと決意して作ったものです。花王販社、その他の少しの例外を除けばこれでほとんど全九州一社になったようなものなのです。しかも各県にある卸業者の何社かは七〇%以上を現金決済しているし、相当の利益をあげていて、その面からだ

けでは合併の必要性は全くないといつてよいのです。これと対照的に薬系の卸業者は福岡だけでも支店を含めると、約二〇社もあるそうです。全九州の雑貨小売業者が、三万軒余もあって、福岡県下の薬局薬店が一五〇〇軒弱であるということ単純に数字だけで見れば、三〇、〇〇〇対一と一、五〇〇対二〇即ち二〇分の一の末端業者に二〇倍の卸業者が取引しているということになるので



す。この他にも雑貨系では、これと同じような会社が北海道に一社、中国、四国に一社できています。多すぎる位の卸業者があるということ。医薬品の特殊性というだけで片付けてしまつていいのでしょうか。本年こそはメーカー卸業者ともに本気で過当競争に取組まなければならぬ年だと思ひます。前に掲げた話は、薬系の卸業者も合併せよ、合併こそ唯一の方法だという意味ではないと

いうことを念のために申しそえます。

### 本年度の計画

昨年、二回の講演会を開きました。が、主催者である当委員会の期待をはるかに超える多数の方々が出来て、終始熱心に耳を傾けておられる姿には感激させられました。このような共感を呼んだ背景には我々の業界に計り知れない困難さが、おおいかがぶさつてきているということと、それに立向おうとする業界全般の強力な意欲があるからでありましよう。大衆薬の規制、医療用医薬品の医薬品の中に占めるシェアの拡大、即ち大衆薬のウエイトの減少といった面は本年こそますます押し進められる可能性を含んでいるでしょうし、流通段階の革命とさえ言われるような急激な変化による大型店、スーパー等の再編成から卸業の存在を否定するような激動、それをねかえず強力な動き等、業界全体をゆり動かし、メーカーといえども身の処理を真剣に考えざるを得なくなる恐れがあると思ひます。このような傾向、特に大衆薬に対する規制の強化は、ひとり日本のみではなく、全世界で起つている問題のように思われます。即ち国によってニュアンス

は多少違ひますが、いわゆる家庭薬と呼ばれるような医薬品のメーカーの組織が医薬品全般の組織とは別に近年一つの動きをしはじめました。その全世界に共通な傾向は、安全性を強調するあまり、有効性を犠牲にするということであり、この不当な圧迫に対して、強い抵抗が表われ、共通点があるからという理由で全世界の組織づくりが始まつたのです。特にアメリカ、カナダ、欧州連合体(AEGSP)が強く推進しており一九七一年に第一回の会合をロンドンで開催する予定にしておりますし、勿論、日本にも参加を求めてきております。

このような状況を説明する手掛りを与えてもらえるような、講師を選んで、六月、十月、明年二月の三回、講演会を開催することを決定しました。講演内容とか講師等々について御希望なり御提案を是非事務局までお申出下さい。

また、本年は計画のみで実行できなかった官庁との連絡も実行したいと思ひますし、卸業者等との懇談も是非実現したいと考えております。これらの事業を遂行して行く上に重要な参考になりますので、販売に関連する苦情、提案等は大きいに歓迎致

します。どうぞよろしく御支援の程をお願い致します。(津村)

## 広告委員会

日本広告主協会では毎年一回「消費者のためになった広告コンクール」を開いている。

その審査の段階に於て、消費者情報としての広告、生活に潤いを与える広告の二点が大きく問題とされている。すなわち消費者に商品知識を正しく伝えているか、広告を通じて消費者生活に明るさ、楽しさ、新鮮さを与えているかである。

医薬品の広告はとかく真面目で、かた苦しくなりやすい。これは医薬品の特性からいって当然なことともいえるが、能書のら列だけでは消費者が満足するとは思えない。特に家庭薬の広告では消費者の日常健康管理に役立つものである限り、明るさ、楽しさ、新鮮さは何としても失いたくないものである。

家庭薬業界は現在、薬制面に於て、開発面に於て、生産販売面に於て避けることの出来ない大きな変革に直面している。この重要時期に当広告委員会本年度の活動では、「消費者のためになるか」「業界全体の

プラスとなるか」をチェックすることが特に必要であると考えている。その上で、厚生省及都庁との十分な連絡、日薬連広告審議会に対する意見の取り纏め、消費者への家庭、組合員会社の広告活動の促進等を円滑に実行して行きたい。特にこれからの医薬品広告に関する組合員諸氏の有益なご意見を当委員会までにお聞かせ頂くことが出来れば誠に幸甚である。(太田)

## 労務委員会

労務委員会の活動は実質的に労務連絡会の運営ですすめられ、組合会社相互の情報・資料交換、講演会開催等を中心にするため、四年を経過しておりますが、その間労働問題はこの業界においても経営上の重要課題としてクローズアップされてきており今後ますますその重要性を増加し、労務倒産という事態さえ惹起し兼ねぬのが今日の姿といえるのであります。それだけに業界としてもこの問題に真剣にとり組んでゆかねばならぬと考えております。

これらの点から四月の定例理事会の席で労務委員会を拡充強化する意味で労務担当者連絡会を中心とし

て、労務委員会を一体化することのご承認を得ました。その点から各社であらためて労務委員を推せんしていただき新しい姿での再発足をしてゆきたいと考えております。

今後労務委員会に対し各社は「何を期待するのか」という点につきましても理事会の席で委員長から理事の皆様のご意見を伺いたいと申上げておりますが、新労務委員のご推薦と併せてこの点を委員を通じてご発表明願うことをお願いしておきます。(歌橋)

## 事務局だより

三月九日午後二時から東京薬業健康保険組合の会議室で東京都家庭薬工業協同組合販売対策委員会主催によって、医薬品の流通機構についてと題して薬業経済研究所常務理事常松巳一先生の講演会を開催、出席人員百五十名午後四時三十分盛會裡に終了しました。

三月十一日午後三時から東京薬業健康保険組合の会議室で東京都家庭薬工業協同組合広告委員会主催によって、東南アジアの医薬品市場と広告についてと題して電通広告局部長

溝口寿太郎先生の講演会を開催、出席人員三十名午後四時散會した。

## 春の叙勲

当組合理事、(株)東京甲子社長、田中敏明殿は、このたび勲五等瑞宝章を授章されました。長年業界につくされ、又組合の大久保彦左衛門として後輩の指導に当られた功績が嘉されたものと思います。謹しんでお慶び申しあげます。

## 各業界だより

四月二十一日午後一時三十分から東京薬業健康保會館で東京薬友会例会の映写会懇親会を開催しました。

映画は胃を科学する(株式会社太田胃散製作) 氣道の営み、のどは泣いて居る(株式会社竜角散製作) 薬草の秘密(株式会社津村順天堂製作)を借用して一時間四十分にあたり上映致しましたが、出席人員四十名が多大な感銘を受けましたが、終了後午後四時から懇親会に移り和やかに懇談を交え午後五時三十分盛會裡に散會致しました。

